

社会資本総合整備計画

事後評価書

令和07年10月27日

計画の名称	鶴岡市における循環のみのちの実現計画（重点計画）													
計画の期間	令和02年度～令和06年度（5年間）											重点配分対象の該当	○	
交付対象	鶴岡市													
計画の目標	下水道整備を促進することにより、安全・安心、衛生的で快適な市民生活環境を実現し、公共用水域の水質保全を図る。													
全体事業費（百万円）	合計（A + B + C + D）		2,505	A	2,475	B	0	C	30	D	0	効果促進事業費の割合 C / （A + B + C + D）	1.19	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		（R2当初）	（R4末）	（R6末）
1	下水道処理人口に係る普及率を78%（R2）から82%（R6）に増加させる。			
	下水道処理人口に係る普及率	78%	80%	82%
	下水道を利用できる人口（人） / 総人口（人）			
2	下水汚泥の肥料としての有効利用率を向上する。本計画では事業が完了しないため、次期整備計画において、下水汚泥を肥料として有効利用する割合を28%から86%（整備後）に増加させる。			
	鶴岡浄化センターで発生する下水汚泥の肥料としての有効利用する割合	28%	%	28%
	コンポスト化汚泥量 / 発生汚泥量			

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-

A 基幹事業																			
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
下水道事業	A07-001	下水道	一般	鶴岡市	直接	鶴岡市	管渠（ 污水）	新設	污水幹線枝線整備（鶴岡 処理区）（未普及解消）	Φ75～250mm L=43.6km	鶴岡市	■	■				2,364		-
	A07-002	下水道	一般	鶴岡市	直接	鶴岡市	管渠（ 污水）	新設	污水幹線枝線整備（小堅 処理区）（未普及解消）	管渠整備に伴う路面復旧一式	鶴岡市	■					60		-
	A07-003	下水道	一般	鶴岡市	直接	鶴岡市	-	-	下水道広域化・共同化の 推進	調査検討計画、統合管渠整備 一式	鶴岡市	■					1		-
	A07-004	下水道	一般	鶴岡市	直接	鶴岡市	終末処 理場	新設	汚泥肥料化設備の新設	汚泥肥料化設備設計、建設工 事 一式	鶴岡市				■		50	1.02	-
											小計						2,475		
											合計						2,475		

C 効果促進事業																				
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
		一体的に実施することにより期待される効果																		
		備考																		
下水道事業	C07-001	下水道	一般	鶴岡市	直接	鶴岡市	-	-	下水道資源・エネルギー の有効利活用（効果促進 ）	下水道資源・エネルギーの農 業利用に関する調査検討	鶴岡市	■	■				30		-	
		未普及解消により増加する下水道資源・エネルギーの調査検討を行い、循環型社会の構築に貢献しより一層推進する。																		
												小計						30		
											合計						30			

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
事業評価委員会で数値目標の達成状況や事業効果の発現状況を確認。	令和7年度
	公表の方法
	市のホームページにて公表

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	事業計画区域内において、計画どおり実施したことにより、整備区域内における未普及が解消され、且つ人口減少を考慮し算定した普及率82%の数値目標を達成し、事業効果は的確に発現されている。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	下水道資源の農水産業利用に関する調査により、産官学の連携や構築に貢献し、コンポスト活用の調査により、土壌改良効果を定量的に表すことで、コンポストの利用促進やPRに貢献している。また、コンポストや処理水などの下水道資源の活用により、農水産業の振興、地域循環型社会の形成や温室効果ガスの削減を推進している。

○特記事項（今後の方針等）

下水道の広域化・共同化を推進し、し尿等投入施設を鶴岡浄化センター敷地内に整備して受入れする等、年間維持管理費の削減を図る。

○ 目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1	下水道処理人口に係る普及率 下水道を利用できる人口（人） / 総人口（人）		
	最 終 目標値	82%	
	最 終 実績値	82%	
2	鶴岡浄化センターで発生する下水道汚泥の肥料としての有効利用する割合（コンポスト化汚泥量 / 発生汚泥量）		
	最 終 目標値	28%	人口減少による汚泥発生量の減少及びコンポスト化汚泥量の増加によるもの
	最 終 実績値	29%	